

## データ等分析結果からみえた課題について

H25. 11. 14 保環研

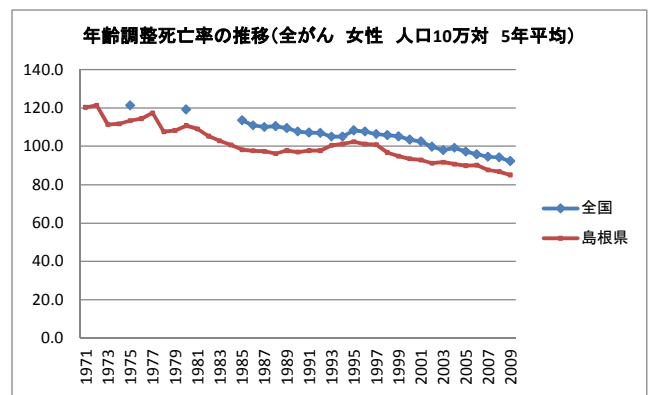
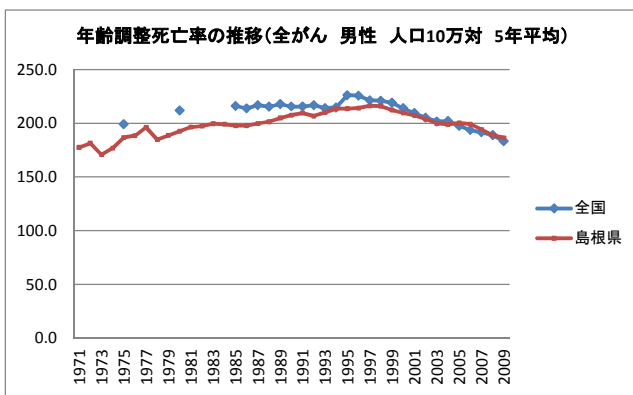
### 1 年齢調整死亡率

死亡者数が少ないことによる偶然の変動による影響を低減させるため、当該年の前後 2 年間を含む 5 年間の人口および死亡者数より算出した 5 年平均死亡率を算出して、全国との比較、圏域間の比較を行った。

#### ① 全がん

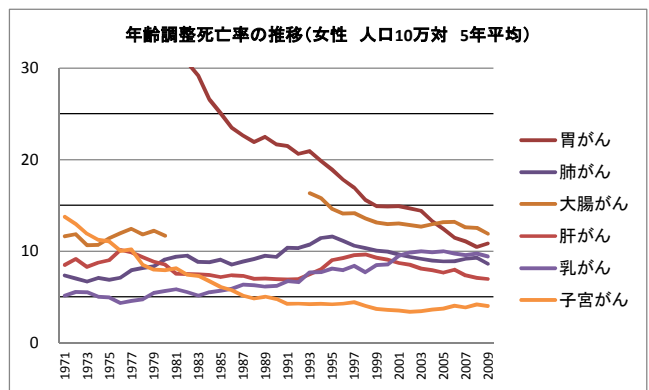
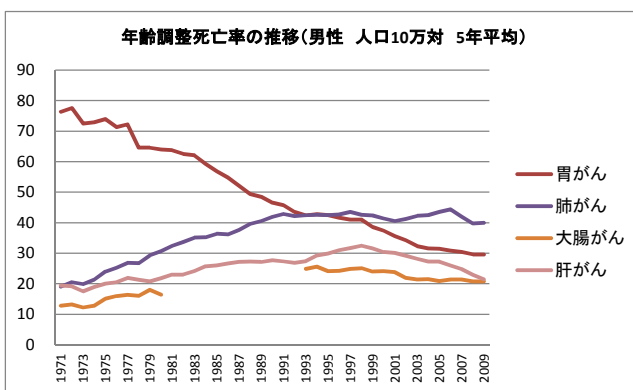
全国男性は 1995 年をピークに減少しており、島根県も同様に 1997 年を中心とする 5 年間をピークとして減少傾向を示している。減少の程度は全国と比べると鈍い。

女性は観察開始年以降一貫して減少傾向であり、全国と比較しても人口 10 万対で 5 から 10、割合でも 5% から 10% 程度低い。



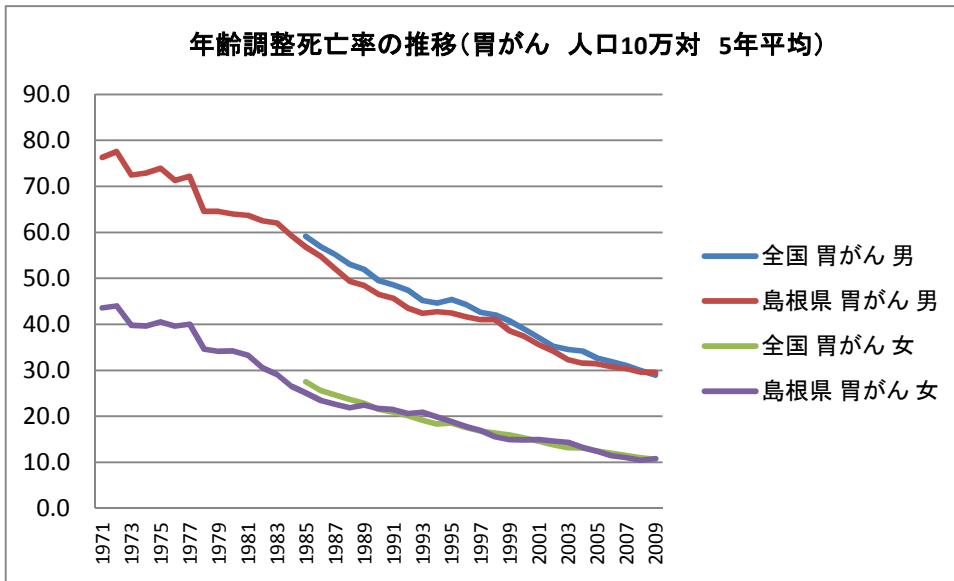
がんの主要な部位別である胃がん、肺がん、大腸がん、肝がん、および女性の子宮がん、乳がんについて推移を見た。女性の乳がんを除いて、全ての部位の死亡率は減少傾向を示していた。女性の乳がんは一貫して上昇傾向にあり、1980 年代に子宮がん、2000 年にはいり肝がん・肺がんを抜いた。

直近値では男性では肺がんが最も高く、女性では大腸がんが高い。



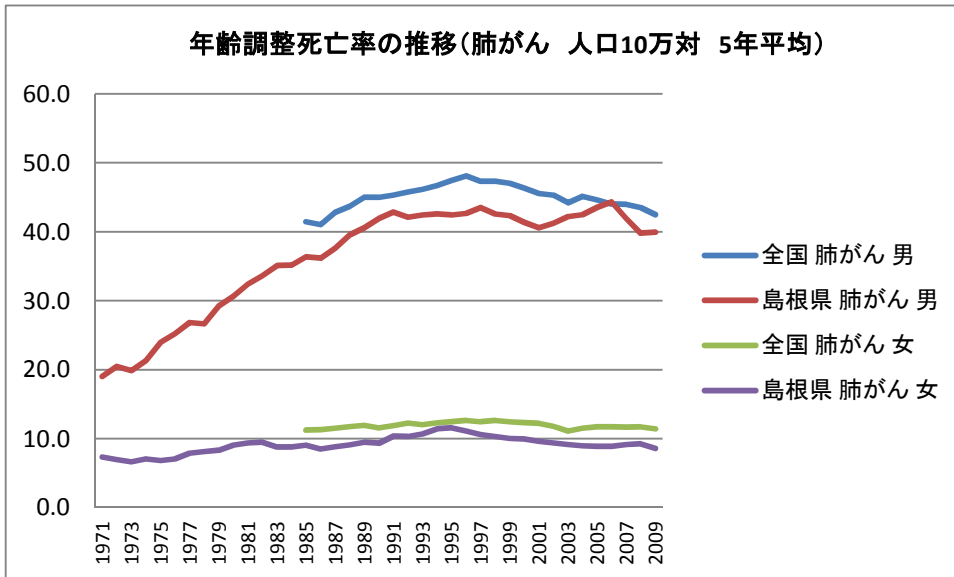
・胃がん

年齢調整死亡率は順調に低下しており、全国とほぼ同程度の水準である。



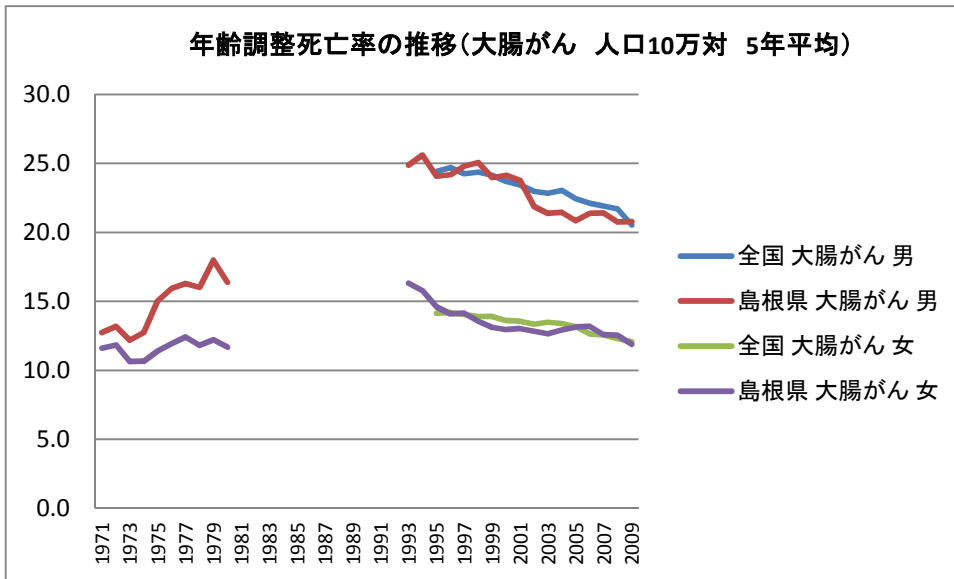
・肺がん

全国では 1990 年代半ばまでは上昇が続いていたが、その後減少に転じている。島根県では男女とも全国と同様の経過をたどっているが、死亡率は男女とも全国よりも低い。



・大腸がん

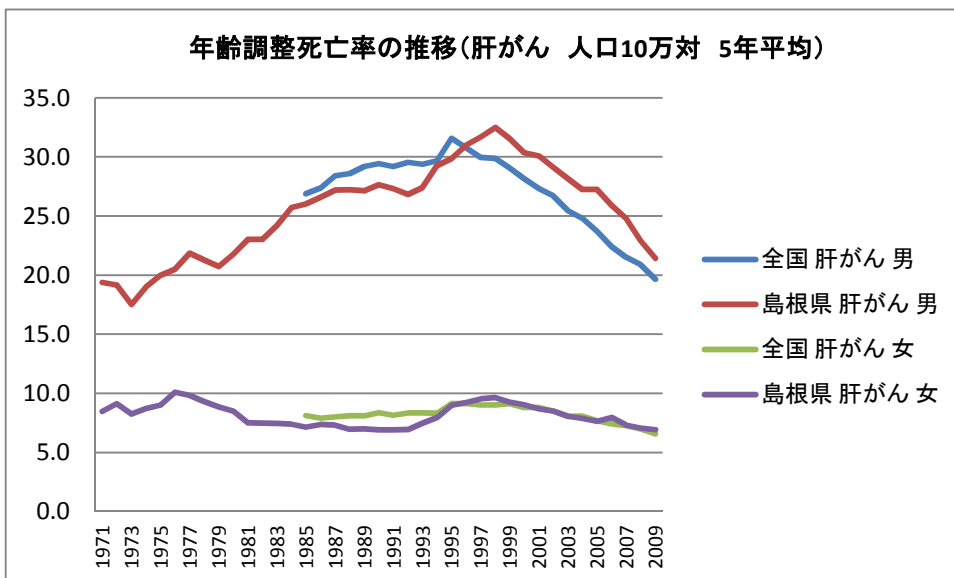
死亡率は近年低下している。全国とほぼ同程度の値である。



(表示がない部分は欠損値 現在データを入手中)

・肝がん

死亡率は男女とも 1990 年代後半より低下しているが、男性は全国と比較すると高い。女性は全国と同程度の値である。

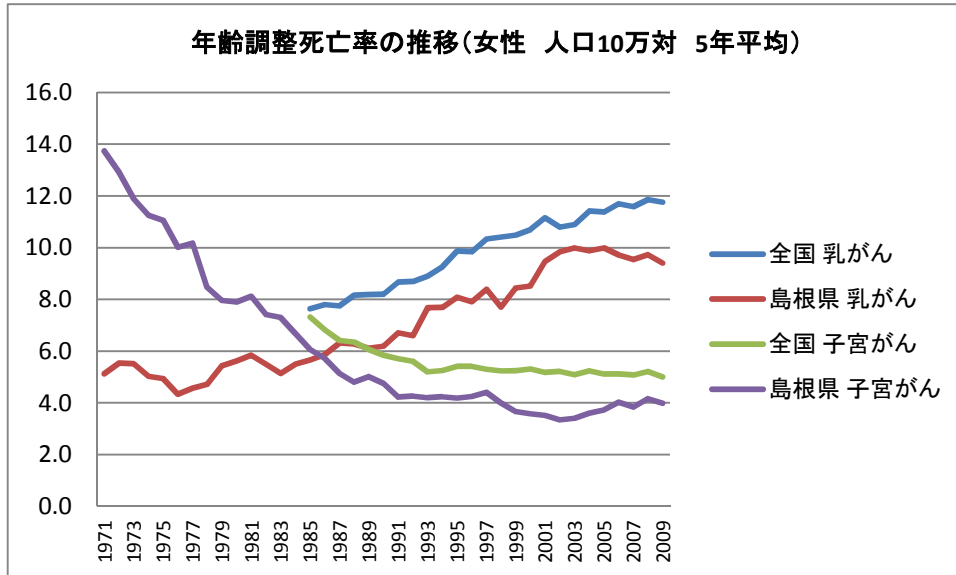


・子宮がん

死亡率は低下しており、全国と比較しても低い。しかし低下は鈍化している。

・乳がん

死亡率は上昇しているが、全国も上昇しており、全国と比較すると低い値である。



## 2 罹患率

島根県地域がん登録情報および国立がん研究センターがん対策情報センターより入手した高精度 4 県の地域がん罹患データをもとに、直接法による年齢調整罹患率を算出した。島根県については、2007 年から 3 年間、全国値は最新のデータである 2007 年の年齢調整死亡率を比較した。大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がんについては上皮内がんを含めた。

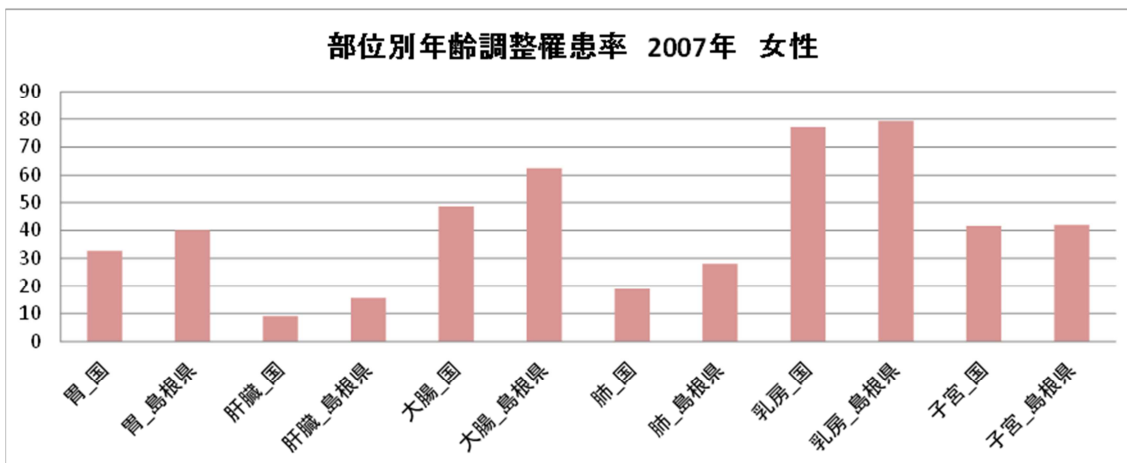
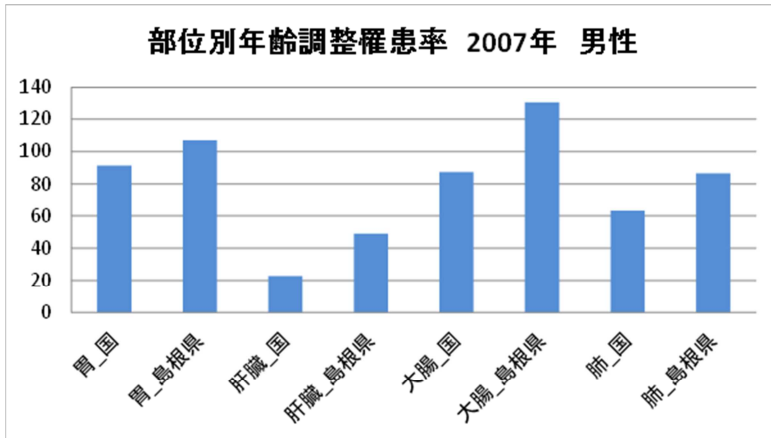
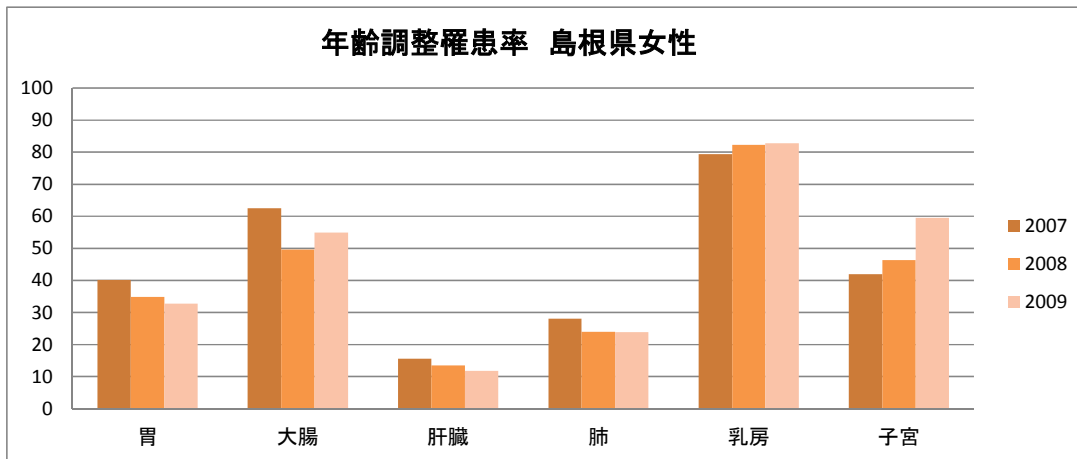
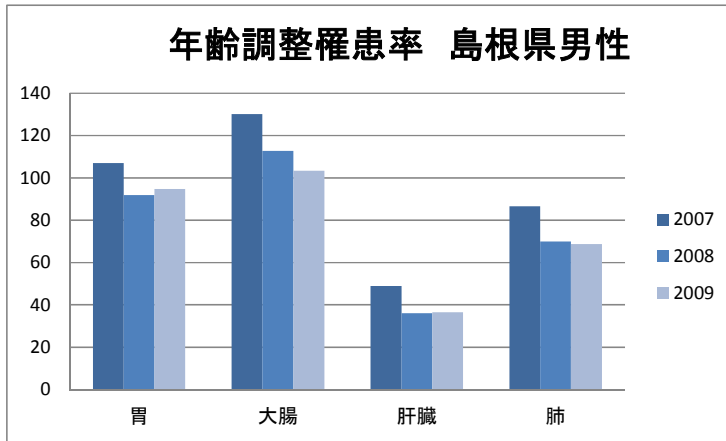
・各部位のがんの罹患率の推移

男性では、各部位とも 2007 年の罹患率が高く、2008 年、2009 年はほぼ同程度である。

直近 2009 年の罹患率は大腸がん、胃がん、肺がん、肝がんの順であった。死亡では肺がんが最も高く、次いで胃がん、肝がんと大腸がんがほぼ同程度というように罹患率の順序とは異なっている。

女性では、乳がん、子宮がん、大腸がん、胃がん、肺がん、肝がんの順であった。死亡率は、大腸がん、胃がん、乳がん、肺がん、肝がん、子宮がんの順で男性と同じく、罹患率の順序とは一致していない。これは、部位により生存率や致命率が異なることによるものと思われる。

国（地域がん登録高精度 4 県）と比較すると、女性の乳がん、子宮がんを除き、各部位ともやや高めであった。島根県の年齢調整罹患率は乳がん子宮がんを除いて 2007 年から徐々に低下しているため、部位によっては地域がん登録が開始した当初は 2007 年以前に罹患した症例が 2007 年の罹患として届け出られた可能性も考えられる。今後、2008 年、2009 年のデータについて全国との比較、罹患率と死亡率の関連等を検討する必要がある。

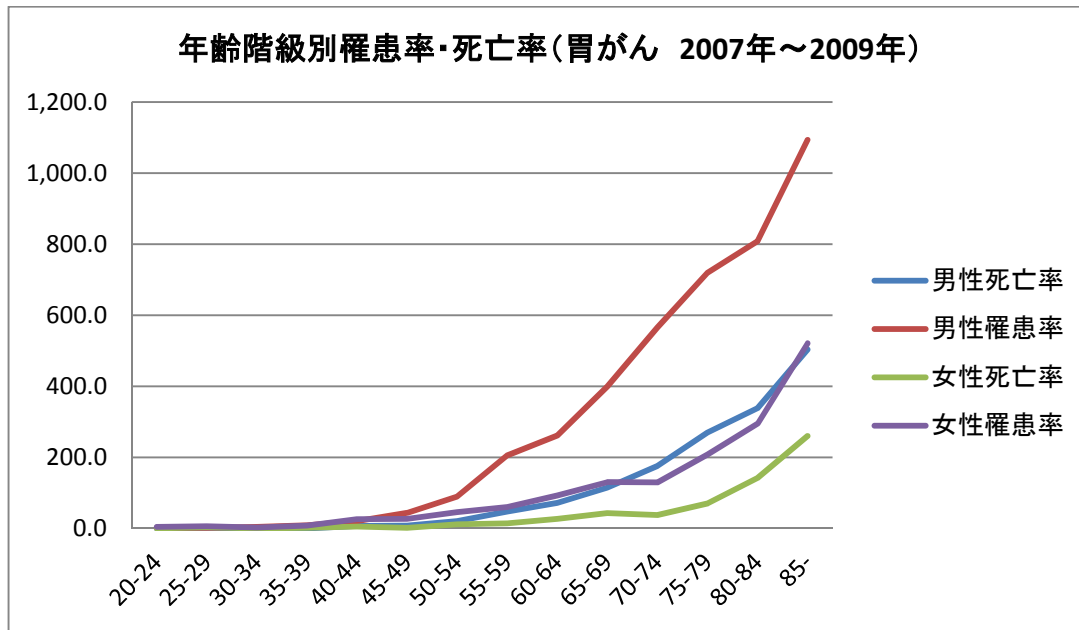


### 3 年齢階級別死亡率・罹患率

各部位のがんについて、年齢階級別の死亡率と罹患率を示す。ともに2007年から2009年の3年間の年齢階級別人口と死亡者数、罹患患者数より算出した。死亡者数は人口動態統計、罹患患者数は島根県がん登録情報からのものを用いた。

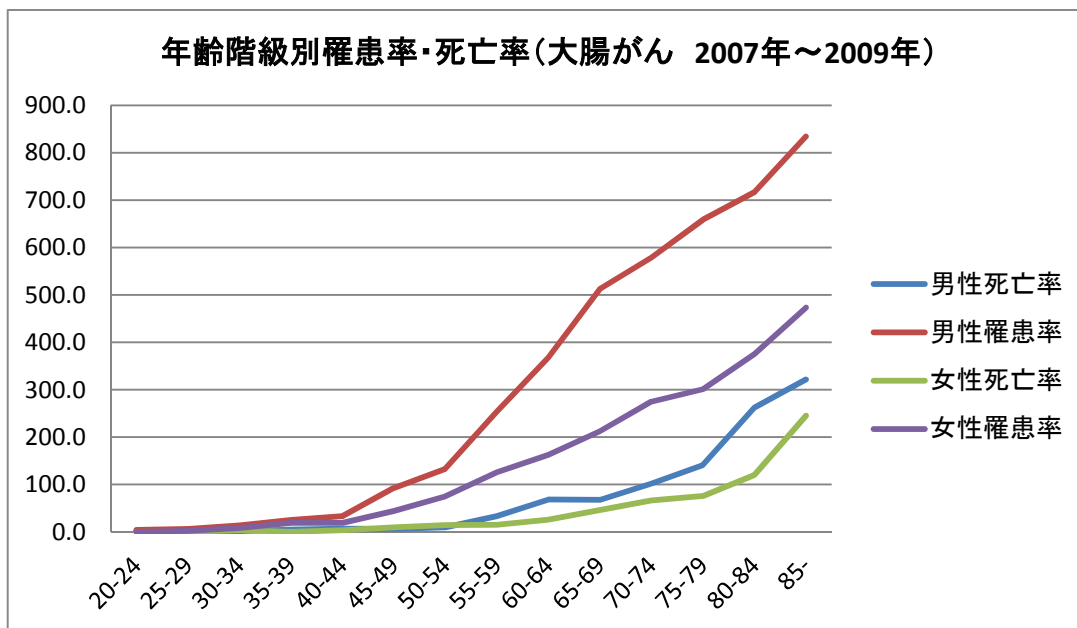
#### ・胃がん

年齢とともに死亡率、罹患率ともに増加する。死亡率、罹患率ともに男性が女性よりも高い。男性の死亡率は女性の罹患率とほぼ同程度の値であった。



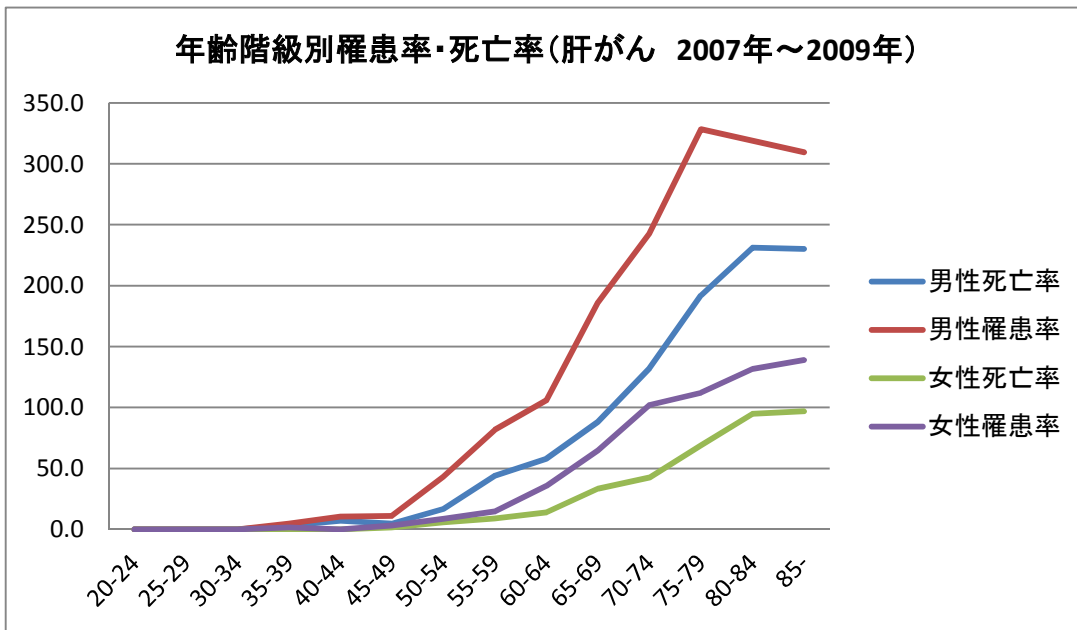
#### ・大腸がん

胃がんと比較すると死亡率/罹患率 比が小さく、致命率が低いことを示していると思われる。



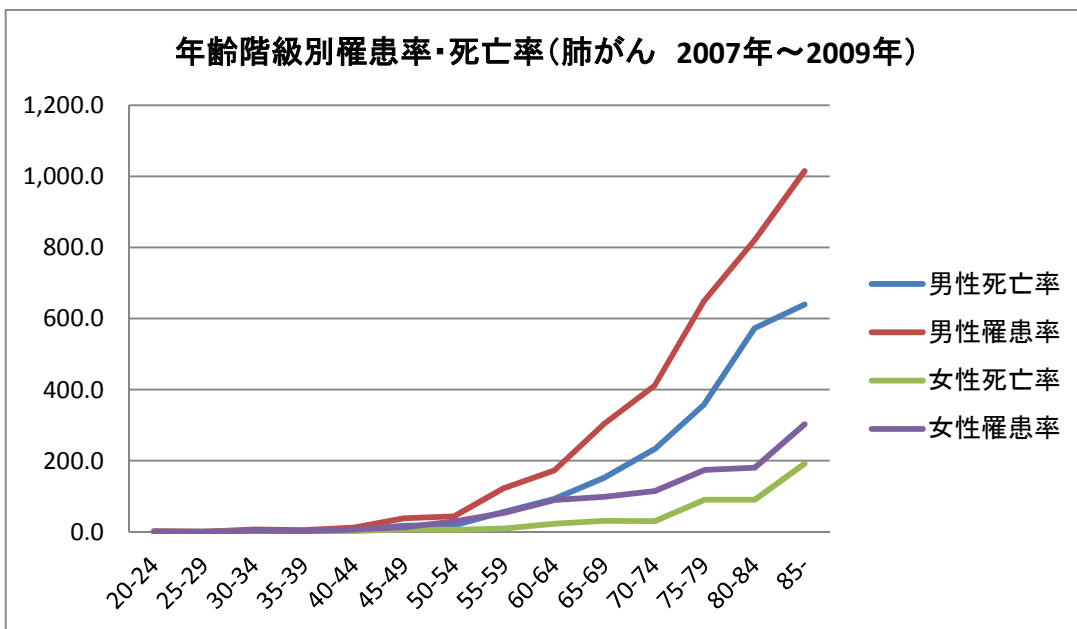
・肝がん

年齢とともに死亡率、罹患率ともに高くなるが、後期高齢では鈍化している。死亡率/罹患率 比は胃がん、大腸がんよりも高い傾向がある。



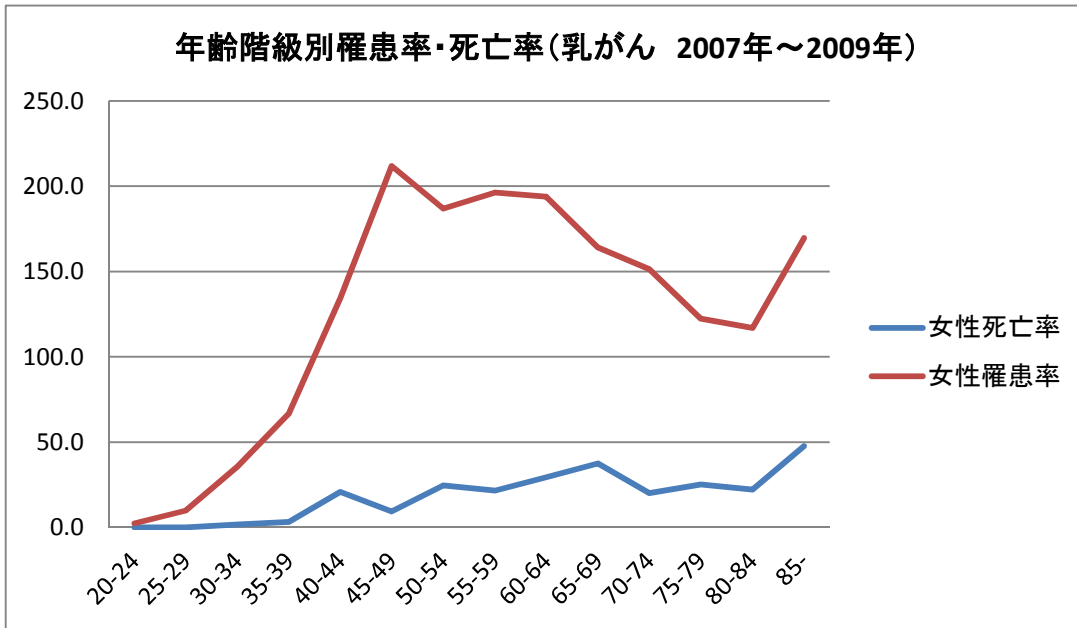
・肺がん

罹患率、死亡率ともに男女の差が大きい。



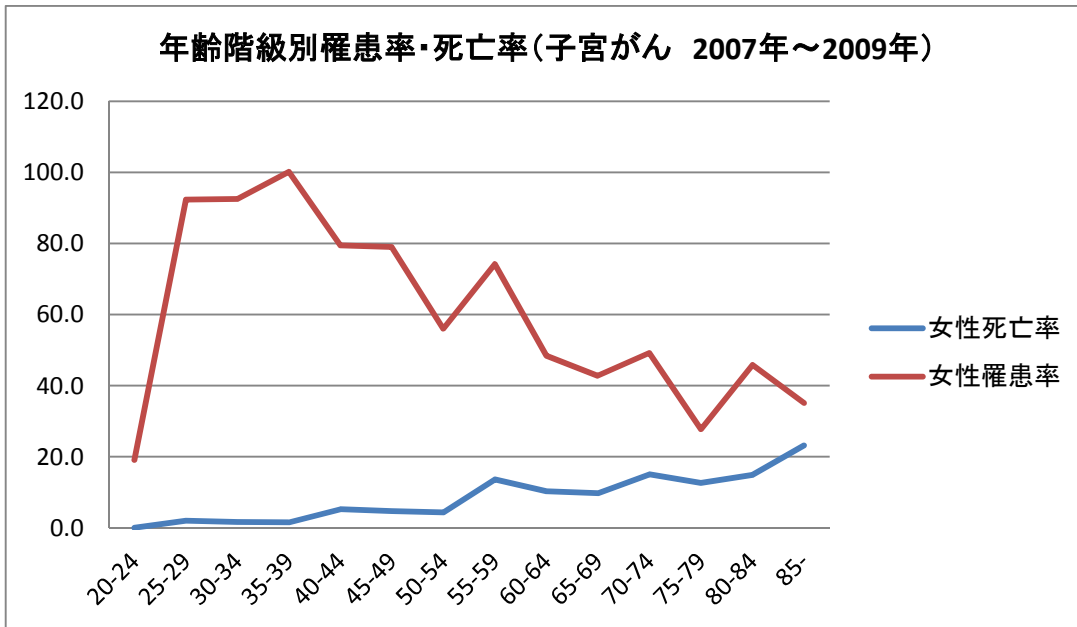
・乳がん

死亡率は年齢とともに緩やかに上昇するが、罹患率は40歳代から60歳代が高い。死亡率/罹患率比は小さい。



・子宮がん

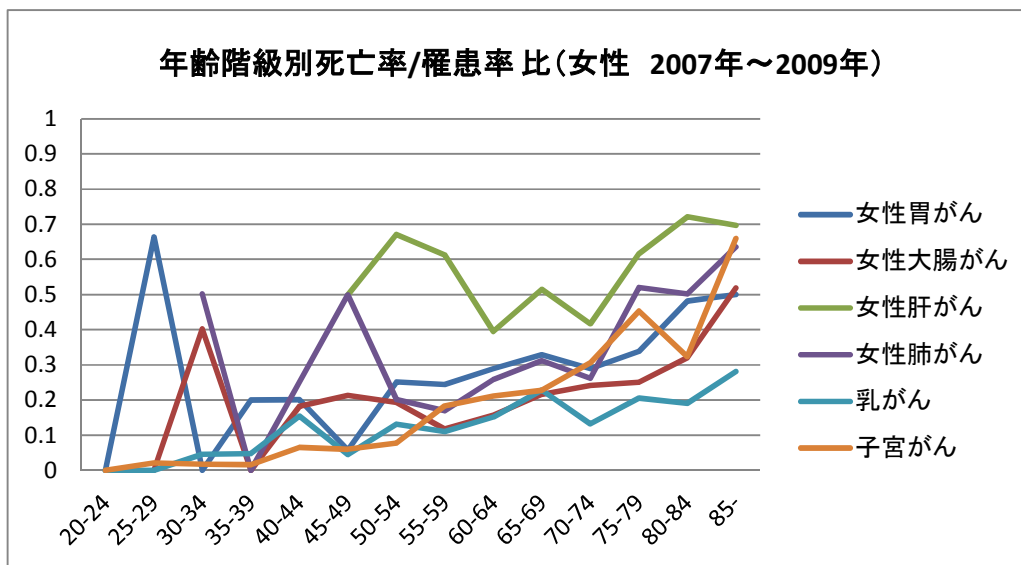
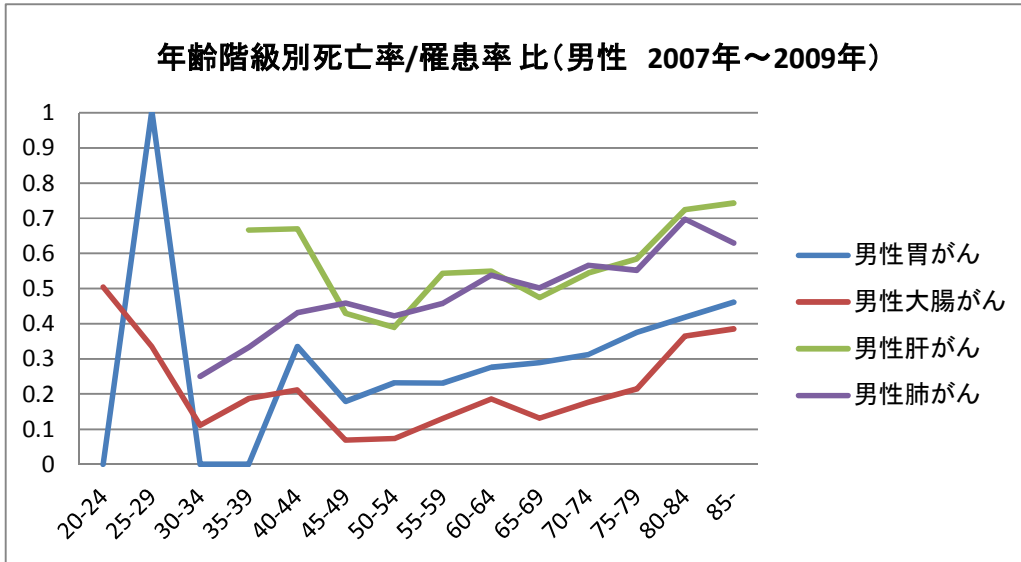
死亡率は年齢とともに上昇するが、罹患率は20歳代後半から40歳代に最も高くその後低下している。若年層の死亡率/罹患率比は極めて小さい。





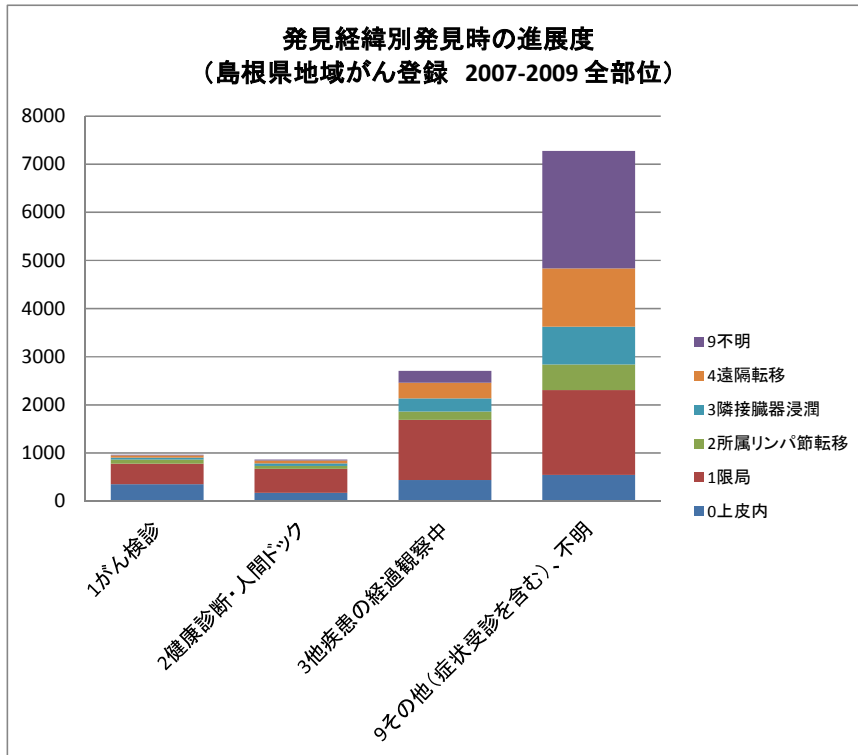
・死亡率/罹患率 比

男性では肝がん和肺がんが高く、次いで胃がん、大腸がんの順に高い。女性では、肝がんが高く乳がんが低い。

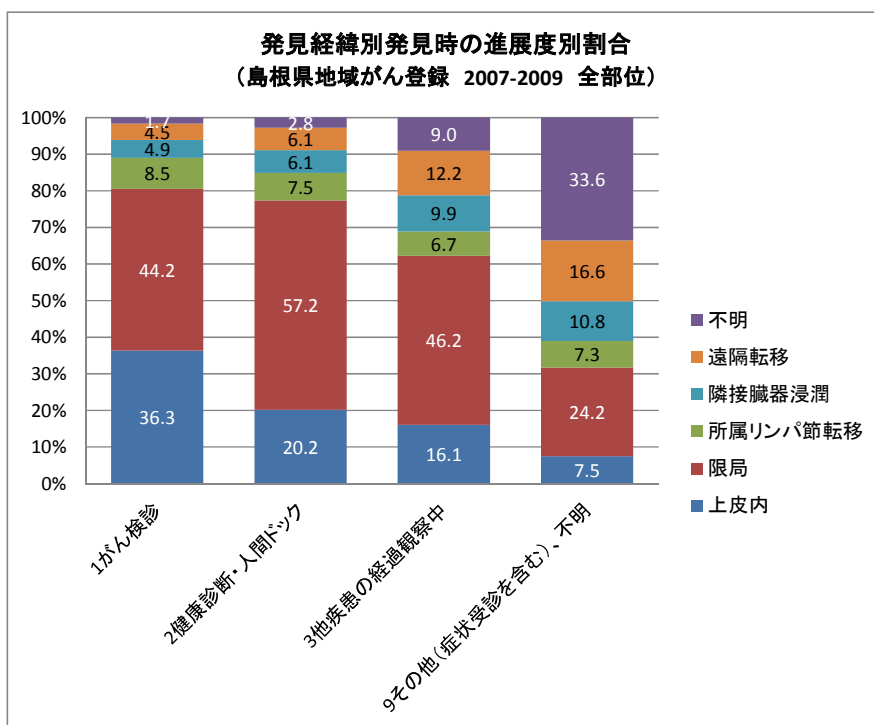


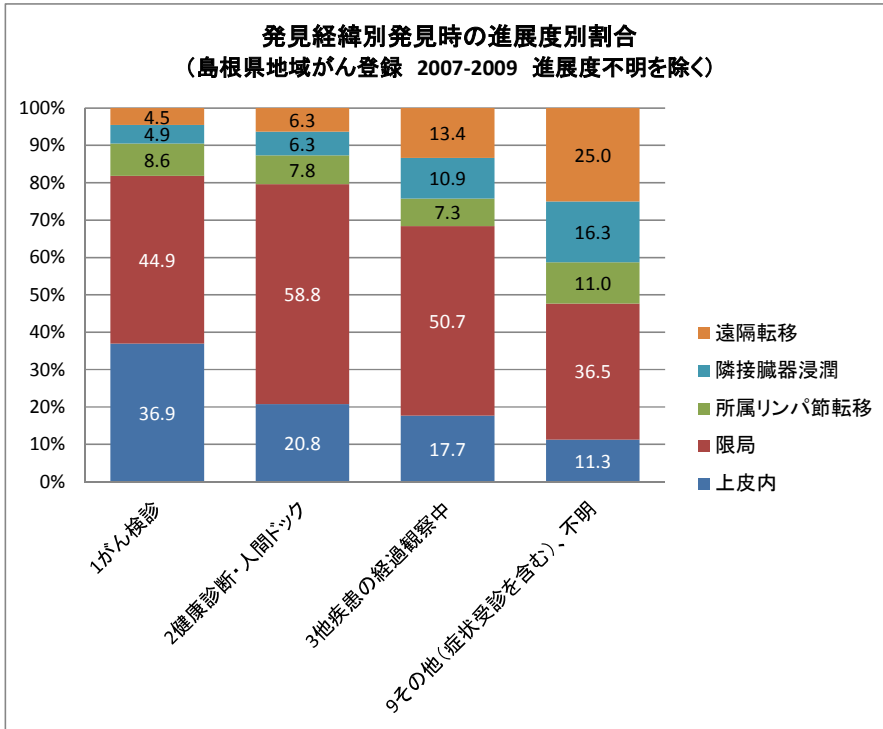
#### 4 がん発見の経緯と進展度

がん発見の経緯別の発見時の進展度を比較した。胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん、子宮がんについて、推定罹患年が2007年から2009年の3年間で、死亡票のみ(627件)、剖検(1件)を除く11810件について集計した。部位によらず検診または健康診断、人間ドックで発見された場合は、進展度が低い傾向が認められた。



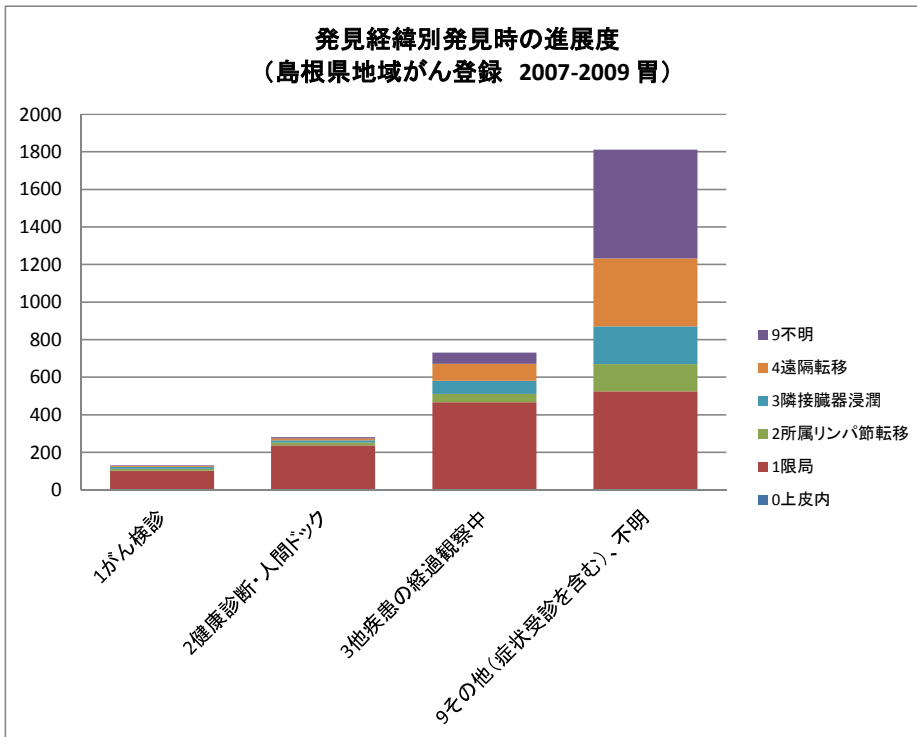
全部位は胃、大腸、肺、乳房、子宮の合計

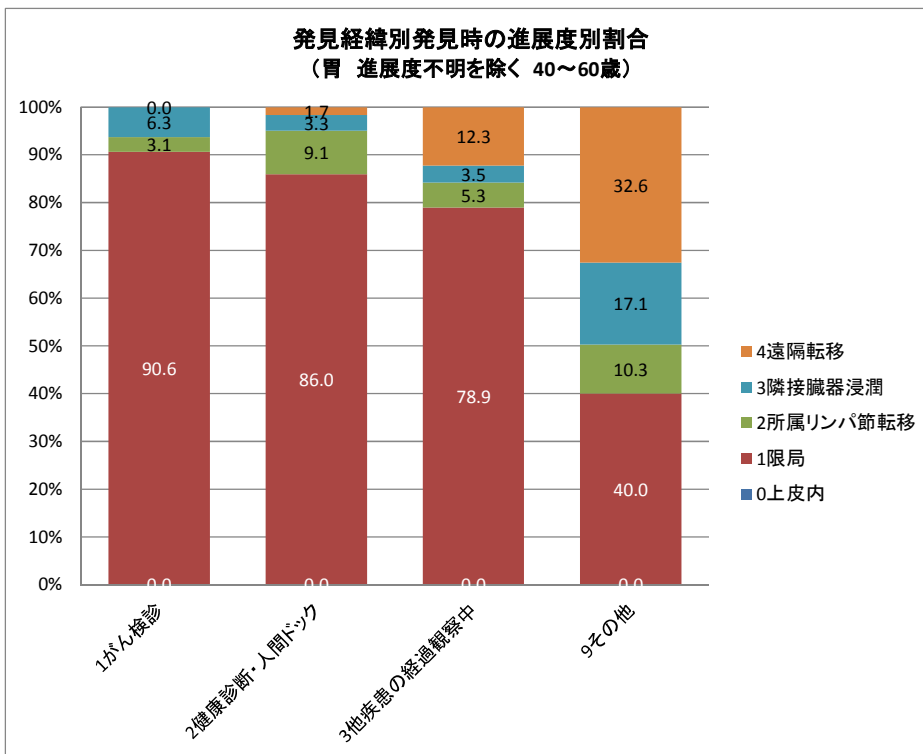
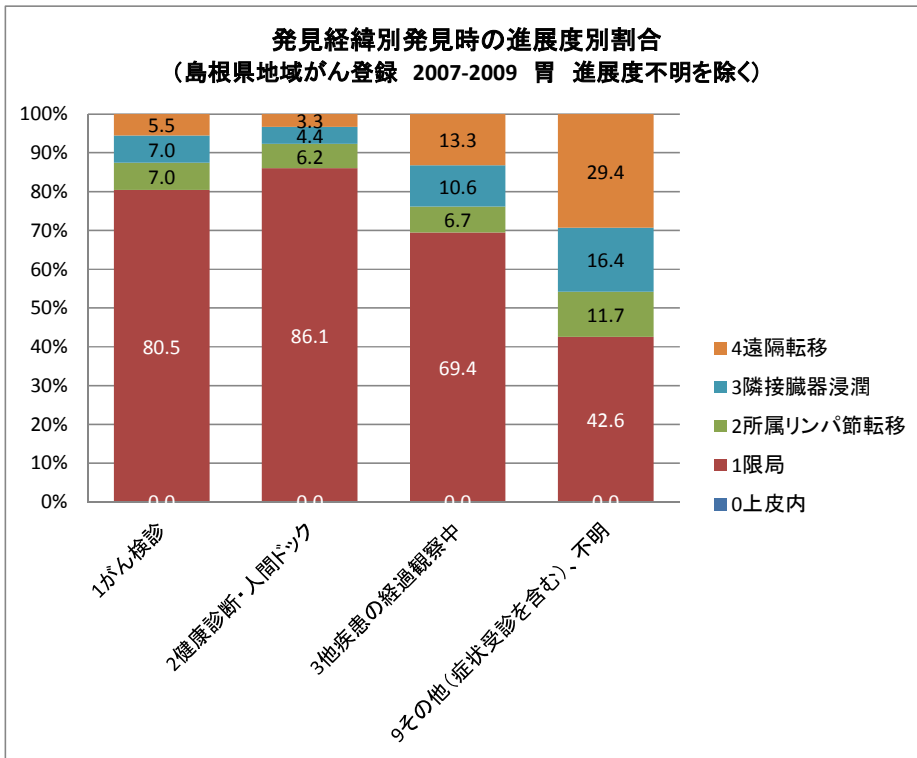




・胃がん

がん検診では、発見時の進展度が判明した者のうち 8 割、健康診断・人間ドックでは 9 割近くが限局であったのに対し、その他（症状受診を含む）・不明では限局が 4 割程度、遠隔転移は約 3 割に認められた 40 歳から 60 歳に限定すると、検診時進展度が限局であったものは 9 割に達する。

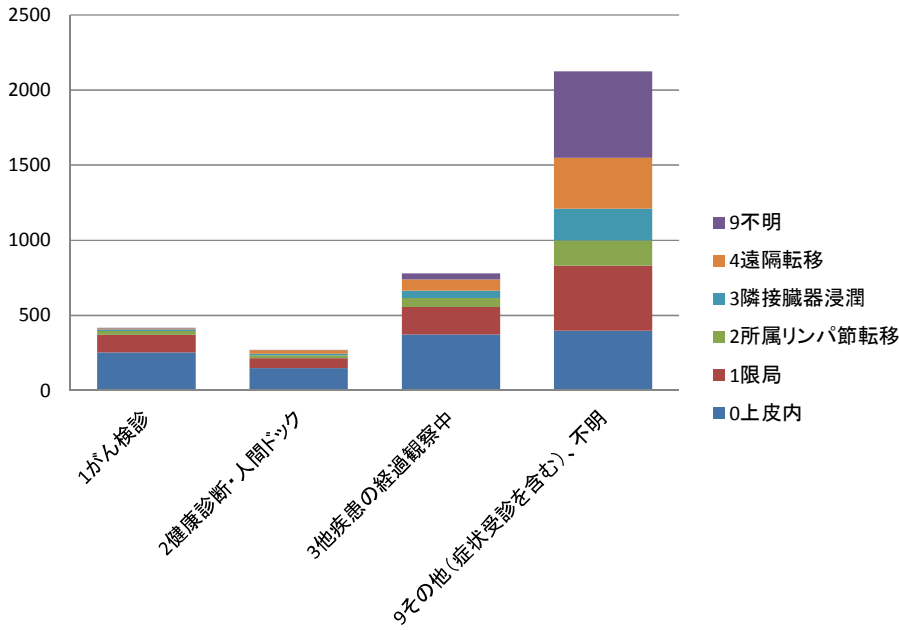




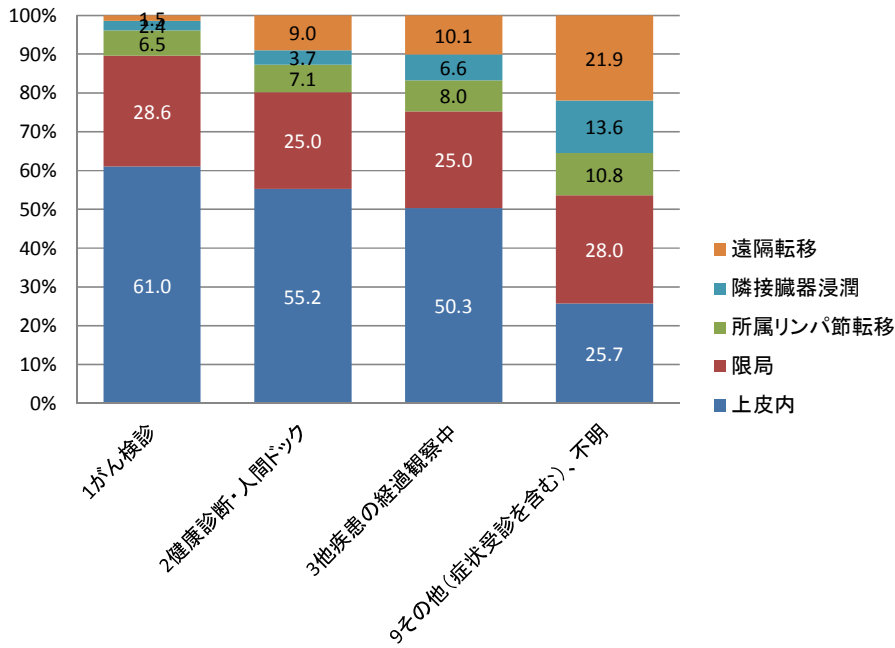
・大腸がん

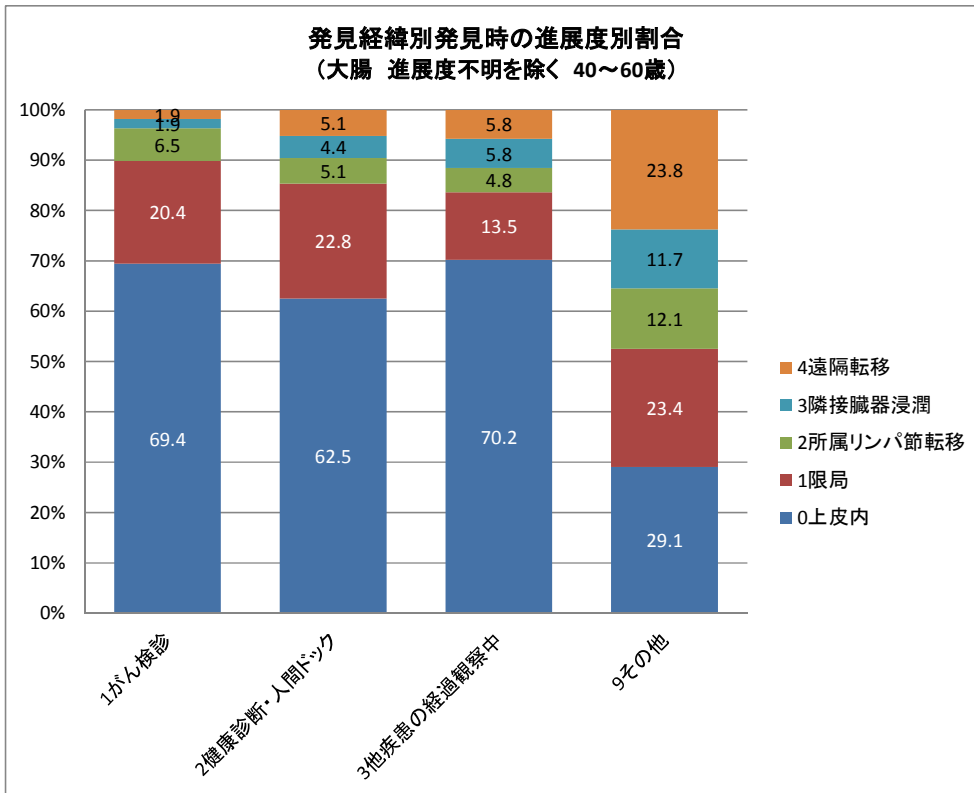
がん検診の受診者も多く、上皮内で発見された割合は約 6 割、限局と合わせると約 9 割に達する。所属リンパ節転移が 6.5%で、隣接臓器進展や遠隔転移の状態で見つかった割合は極めて低い。一方、その他(症状受診を含む)・不明では上皮内および限局が 5 割強であり、遠隔転移は約 2 割に認められた。40 歳から 60 歳に限定すると、検診により発見されたうち、上皮内にとどまっていたものは約 7 割に達する。

発見経緯別発見時の進展度  
(島根県地域がん登録 2007-2009 大腸)



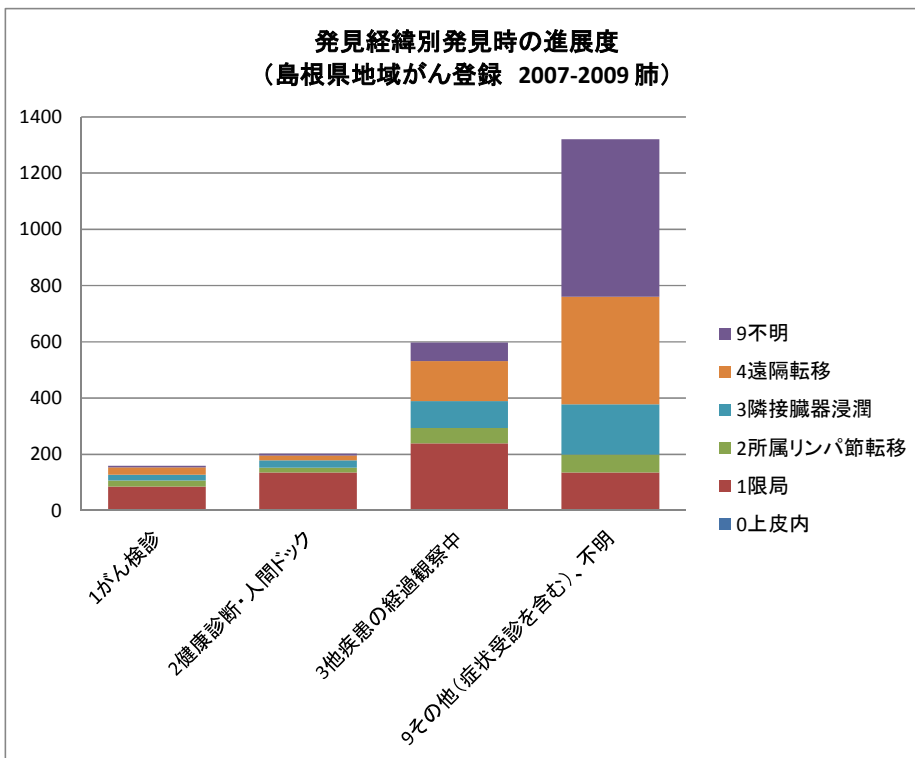
発見経緯別発見時の進展度別割合  
(島根県地域がん登録 2007-2009 大腸 進展度不明を除く)

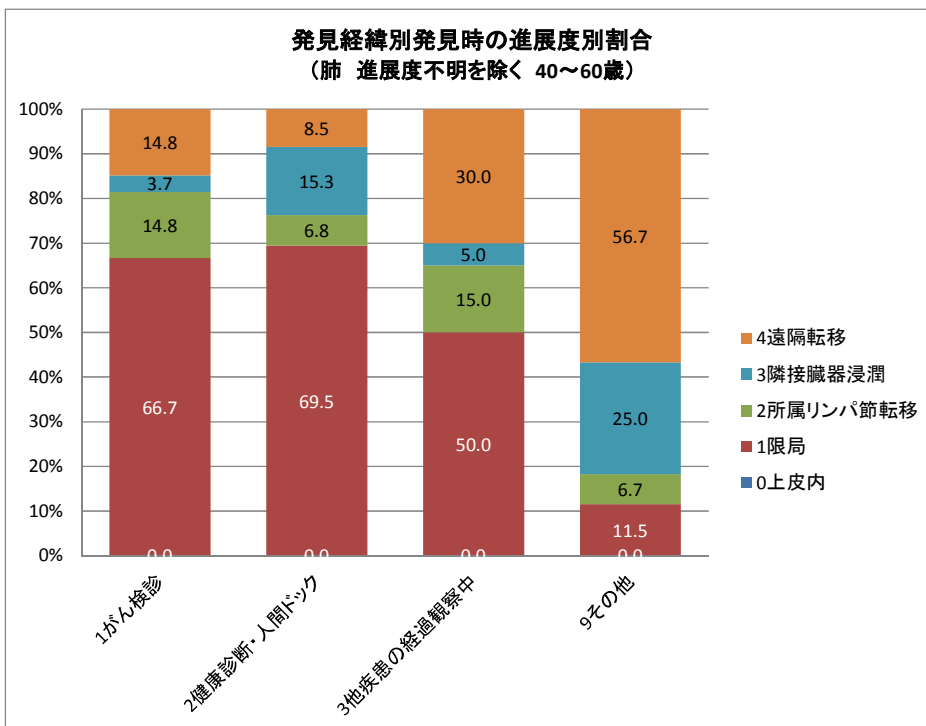
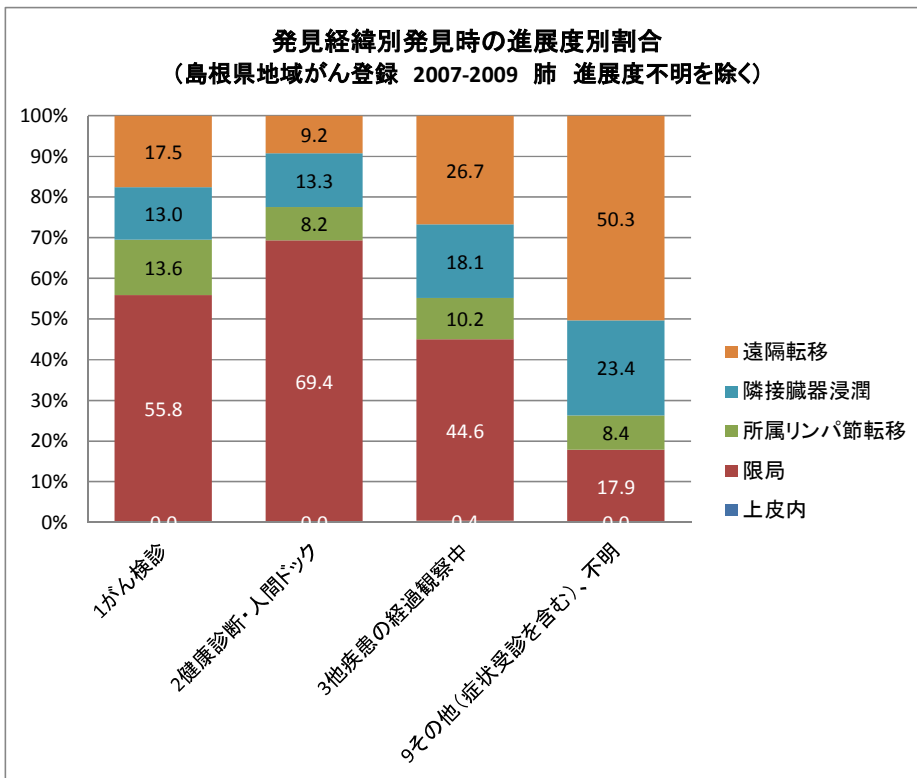




・ 肺がん

検診で発見されたうち、56%が限局で、17.5%に遠隔転移が見られた。一方その他（症状受診を含む）・不明でも限局が18%で、遠隔転移は5割以上に見られ、他の部位のがんと比較し、発見時の進展度は高かった。40歳から60歳に限定すると、検診で発見されたもののうち限局は67%となり、全年齢の56%と比較すると割合は増加する。

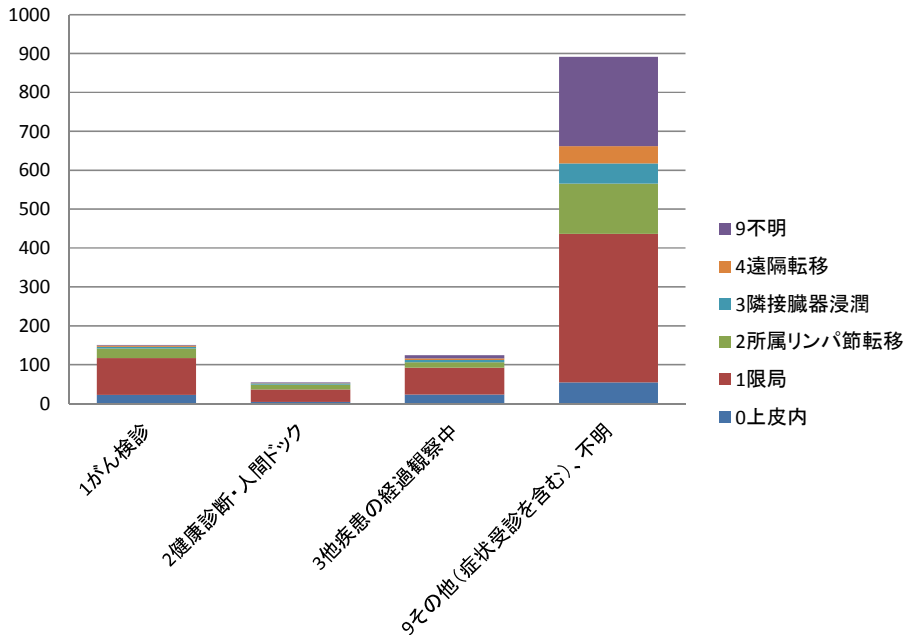




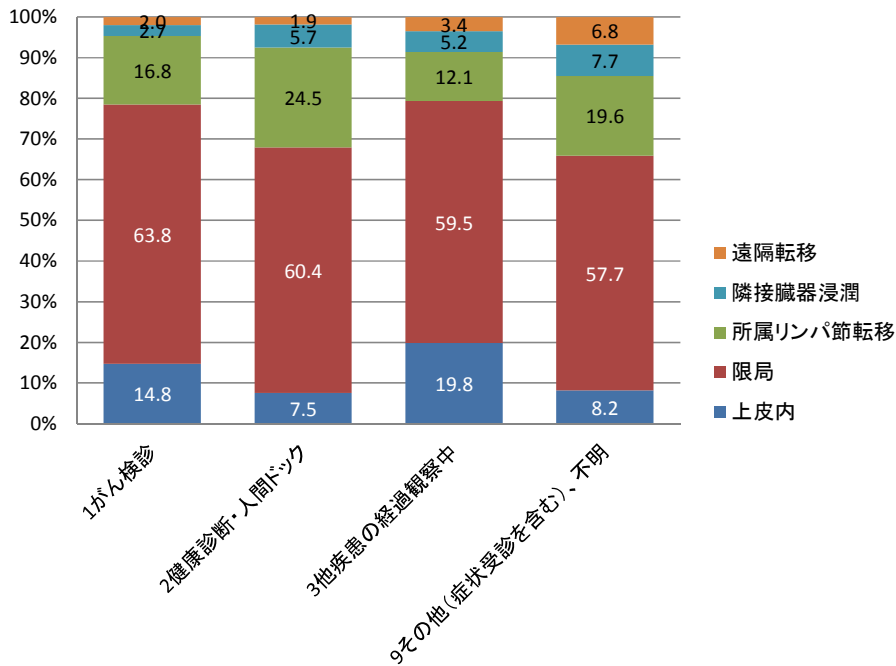
・乳がん (女性のみ)

他の部位と比較して、検診とその他の発見経緯との差は小さく、検診以外でも早期に発見される割合は比較的高い。40歳から60歳に限定しても同様の傾向である。

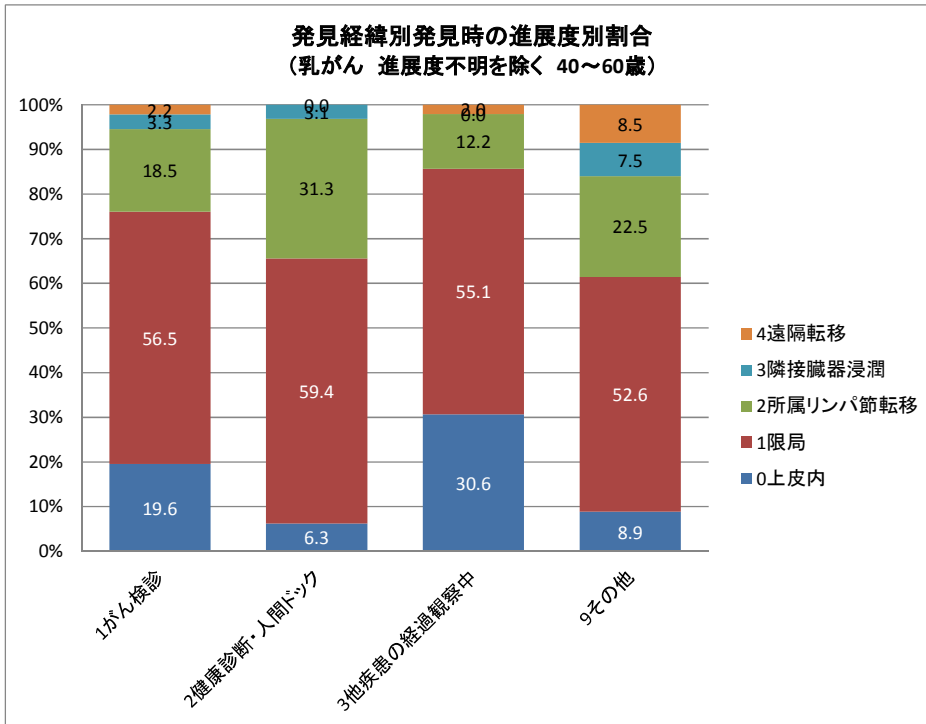
発見経緯別発見時の進展度  
(島根県地域がん登録 2007-2009 乳がん)



発見経緯別発見時の進展度別割合  
(島根県地域がん登録 2007-2009 乳がん 進展度不明を除く)

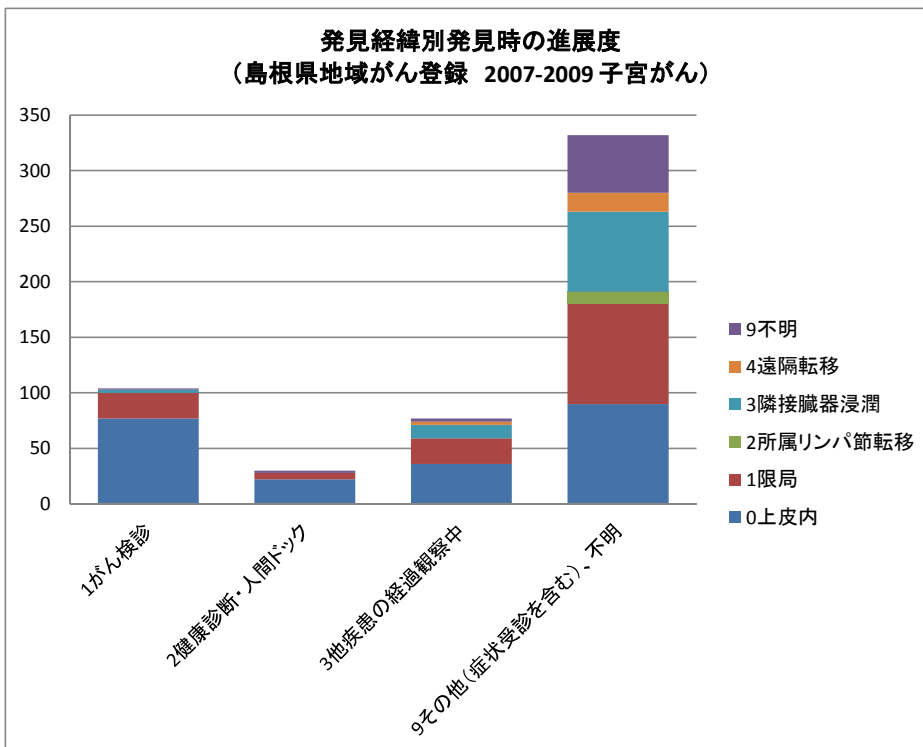




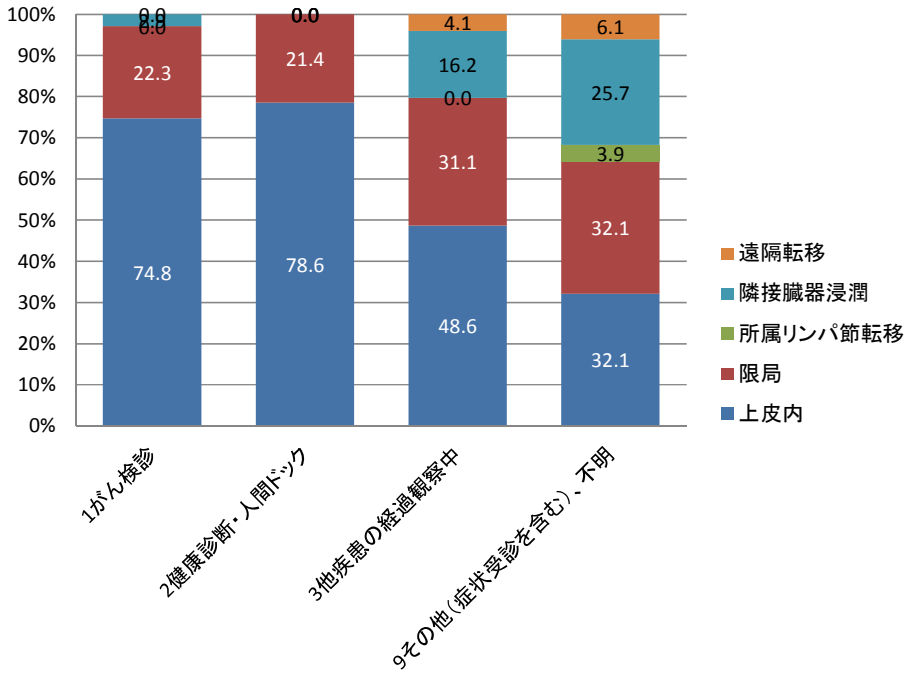


・子宮がん

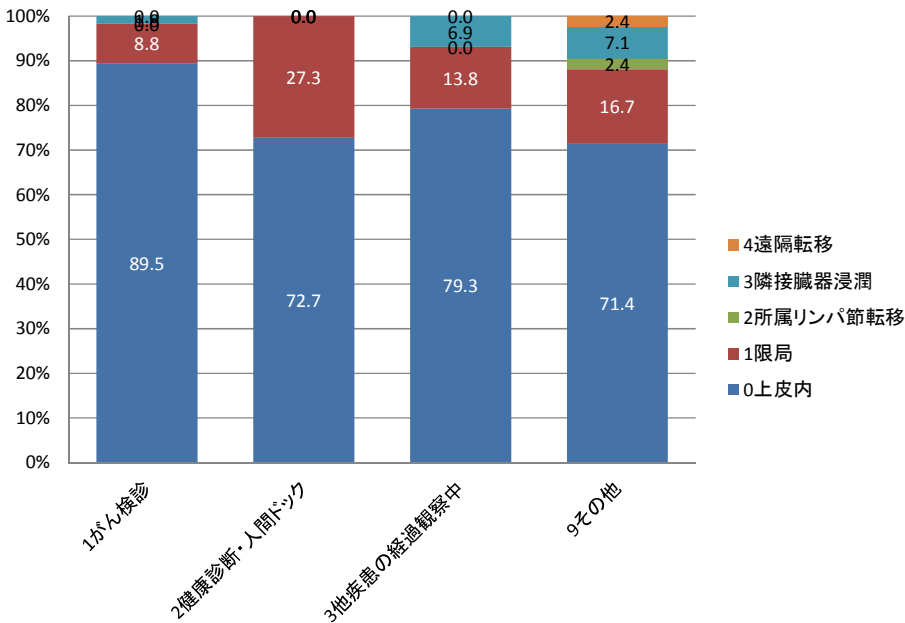
検診で発見された場合は97%が早期であり、検診で発見されたうち早期であった割合は最も高かった。健康診断・人間ドックでは進展度不明を除くと全員が早期であったが、発見経緯の絶対数は小さい。無料クーポン券の配布対象者である20歳から40歳に限定すると、検診で発見されたもののうち、進展度が上皮内は約90%と増加する。一方41歳から60歳では上皮内は約5割と低下する。

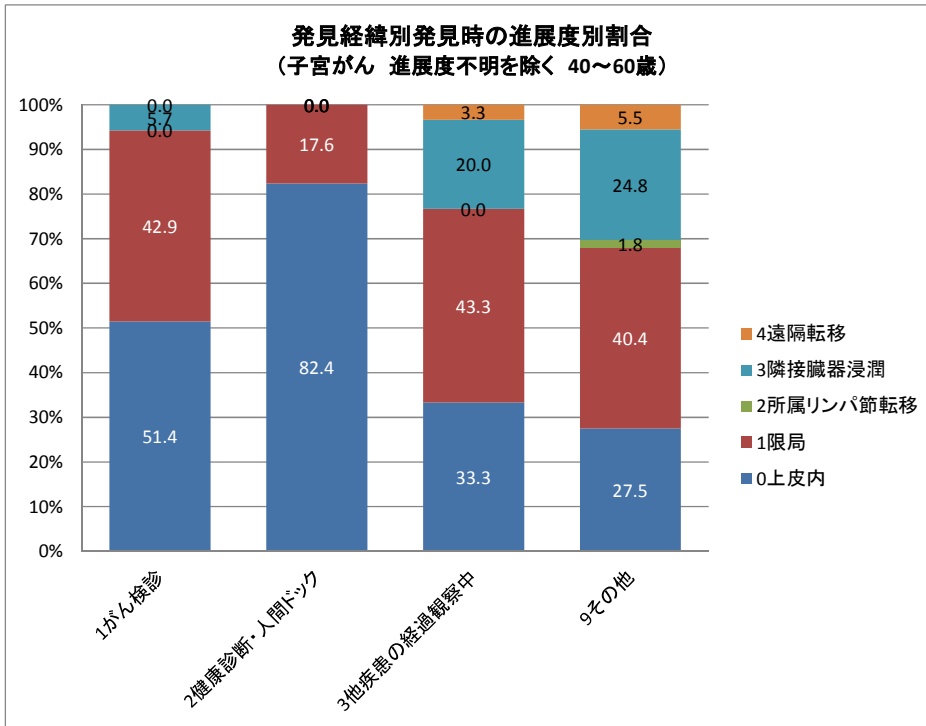


発見経緯別発見時の進展度別割合  
(島根県地域がん登録 2007-2009 子宮がん 進展度不明を除く)



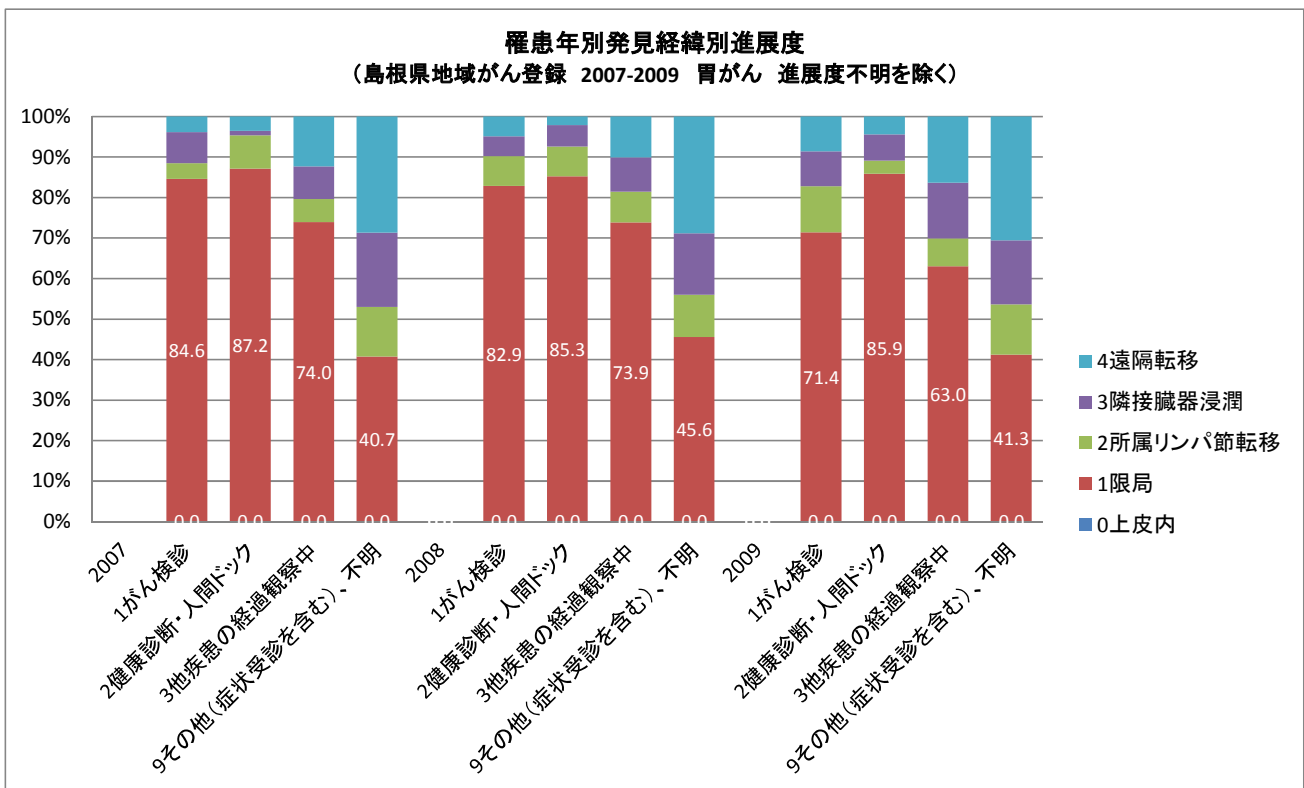
発見経緯別発見時の進展度別割合  
(子宮がん 進展度不明を除く 20~40歳)



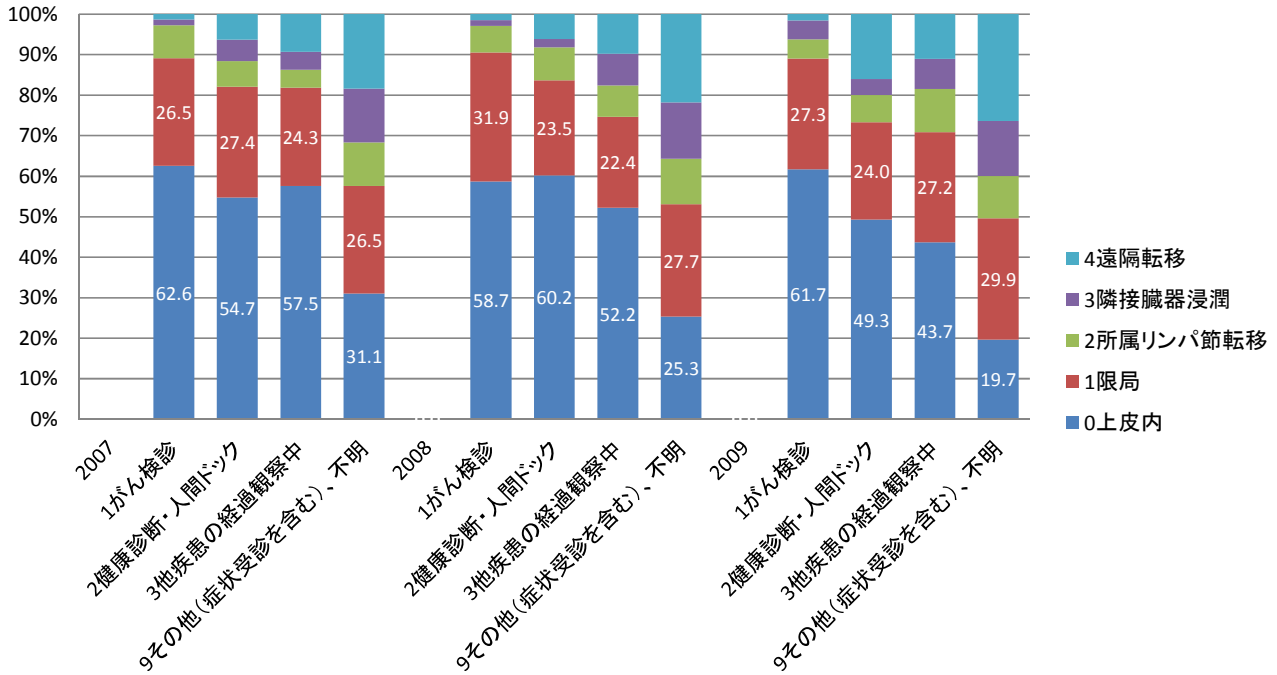


・罹患年別の発見経緯別進展度

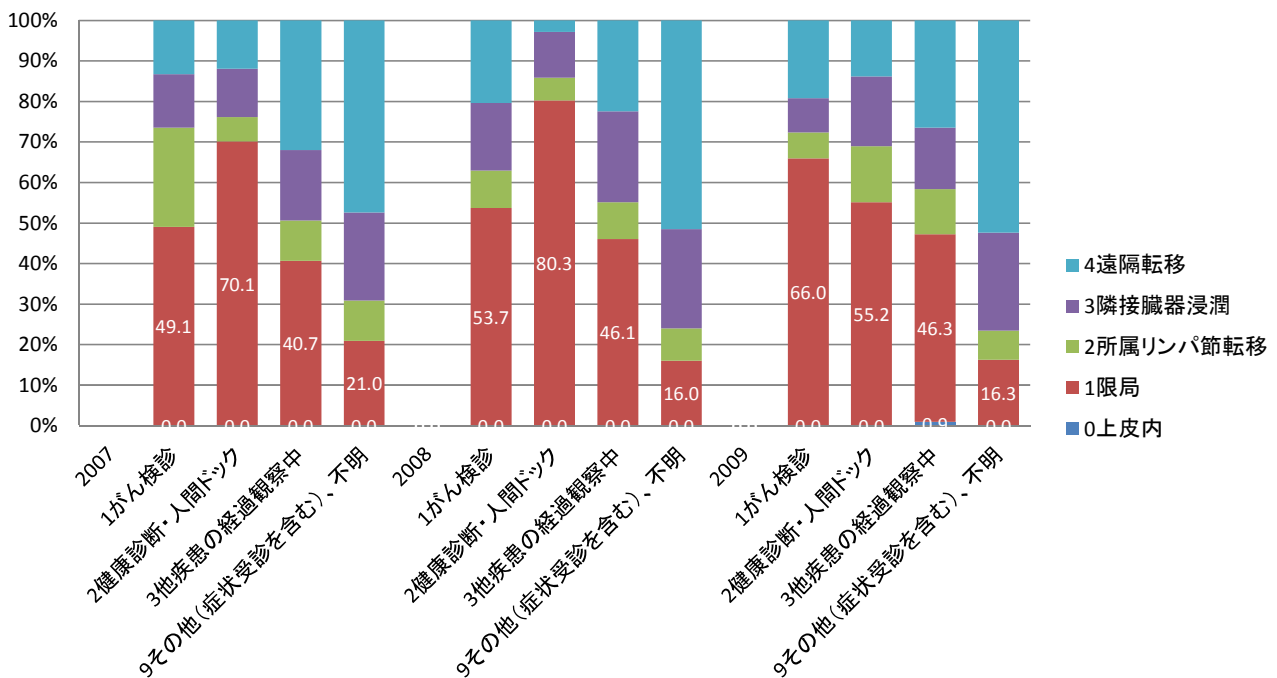
各部位で年ごとに大きな違いは認められなかったが、今後の推移を見る必要がある。



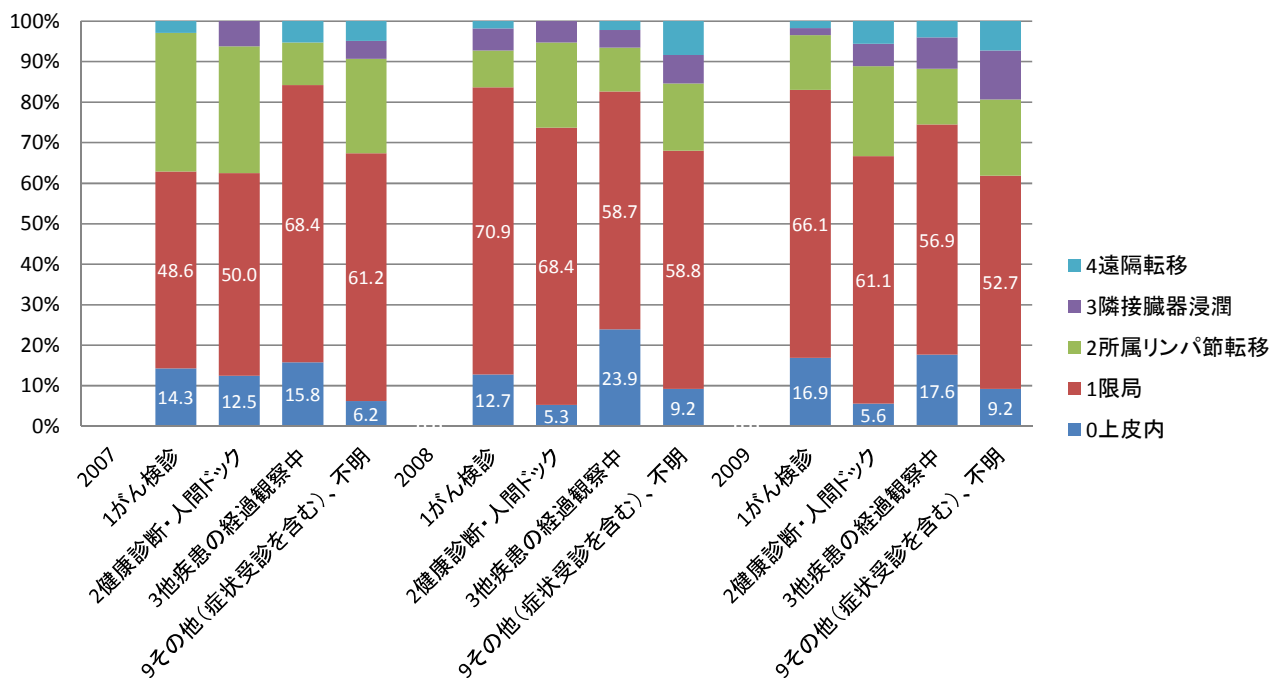
罹患年別発見経緯別進展度  
(島根県地域がん登録 2007-2009 大腸がん 進展度不明を除く)



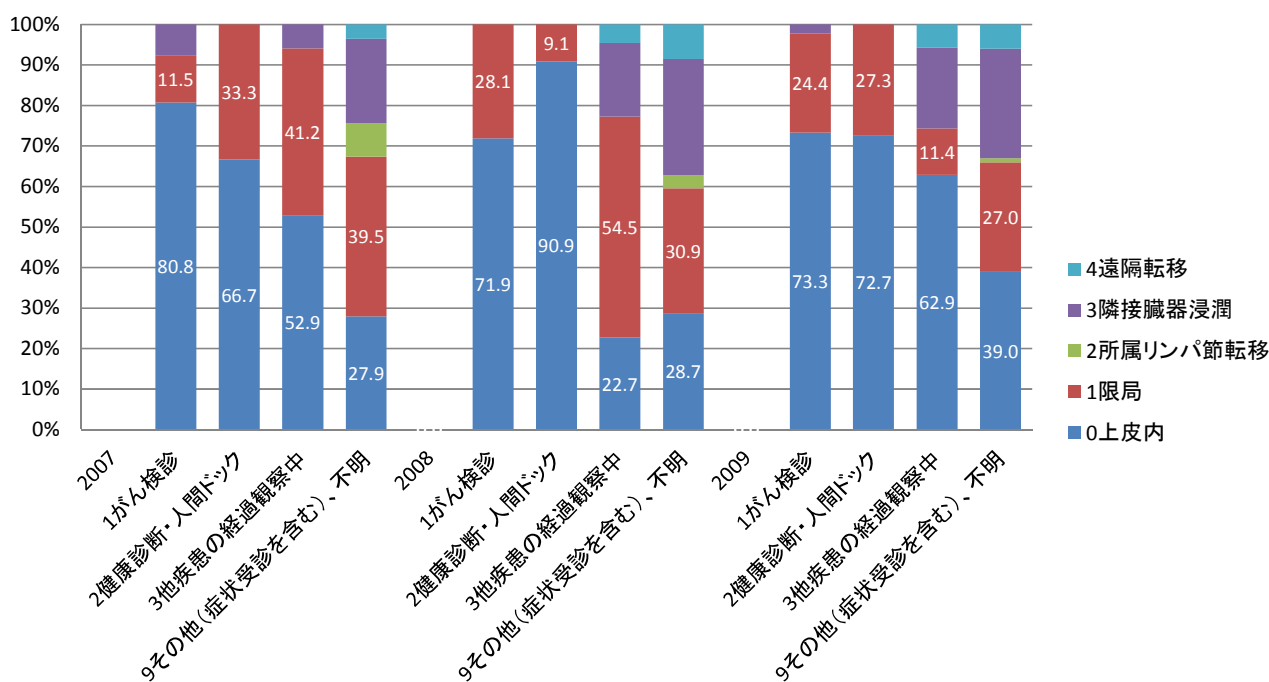
罹患年別発見経緯別進展度  
(島根県地域がん登録 2007-2009 肺がん 進展度不明を除く)



罹患年別発見経緯別進展度  
(島根県地域がん登録 2007-2009 乳がん 男性・進展度不明を除く)



罹患年別発見経緯別進展度  
(島根県地域がん登録 2007-2009 子宮がん 進展度不明を除く)

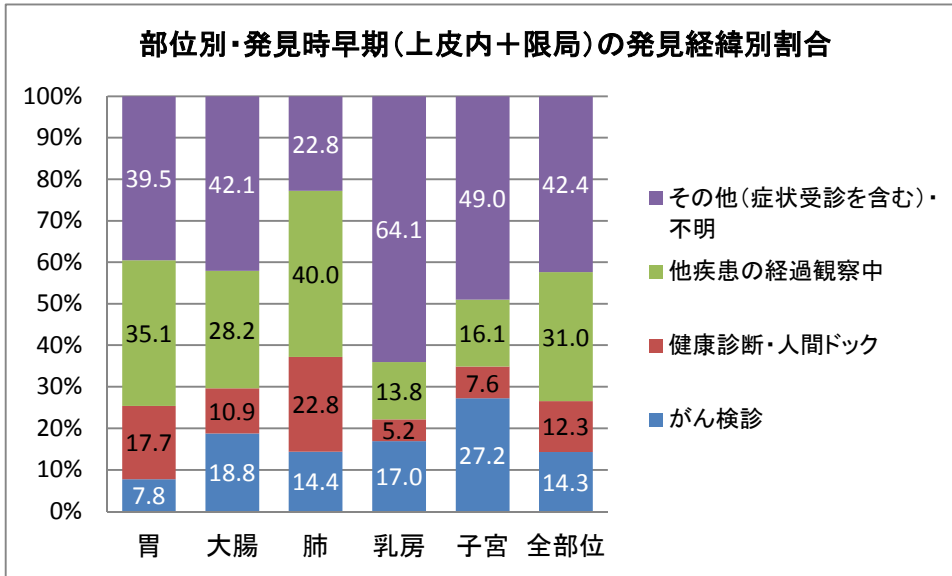


・発見時上皮内および限局であった者の発見経緯

早期がんで発見された者のうち、子宮がんは 27%ががん検診で発見されており、次いで大腸がんが 19%と高かった。最も低かったのは胃がんで、約8%であった。

健康診断・人間ドックも合わせると、肺がんが37%、子宮がんが35%と高かった。

他疾患の経過観察中は肺がんが40%、胃がんが35%であった。乳がんの早期発見の経緯は64%がその他（症状受診を含む）・不明であった。



\*全部位は胃、大腸、肺、乳房、子宮の合計